



TITLE:

心の構えを切り替える心の働き

AUTHOR(S):

齊藤, 智; 佐伯, 恵里奈; 谷田, 勇樹

CITATION:

齊藤, 智 ...[et al]. 心の構えを切り替える心の働き. 京都大学アカデミックデイ2014: ポスター/展示 2014

ISSUE DATE:

2014-09-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196029>

RIGHT:

「では始めましょう。準備はいいですか？」

こころの中にそのときの状況に応じた「心の構え」を作ることができる

日常生活の活動の多くは「心の構え」を意識することなくできる

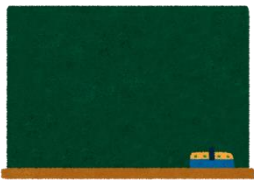
・パソコンの利用

アプリケーション(ワード、エクセル、パワーポイントなど)を、それらの使い方を意識することなく、切り替えられる。

・車の運転

ハンドル、ブレーキ・アクセル、シフトレバーをそれぞれ意識することなく、状況に応じて操作できる。

相手の「心の構え」を誘導できる



では、授業を始めます。

大事な話があって、電話しているのだけど…、

「心の構え」を意識するとき

・新しい(不慣れな)ことをするとき。

・今行おうとしていることに干渉する行動様式があるとき。

➡ デモ課題に挑戦！

状況に応じた心の構え(規則表象)の設定・維持が行動の制御に重要

「心の構え」は発達にともない複雑になっていく

1. 刺激-報酬の連合

刺激 ➡ 報酬
経験

2. 単純な構え



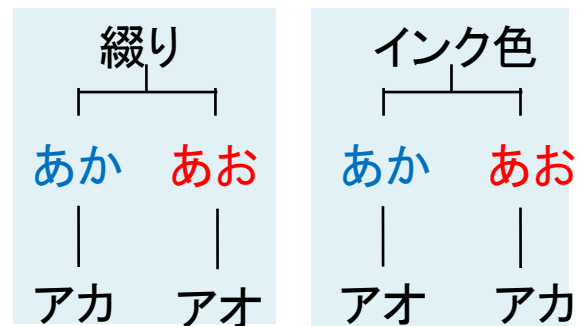
止まれ



進め

3. 複雑な構え

刺激に対して状況に応じた構えの選択



前頭葉と構えの発達の関連

前頭葉(オデコあたりの脳領域)が、このような心構えに関与することが明らかになっています。

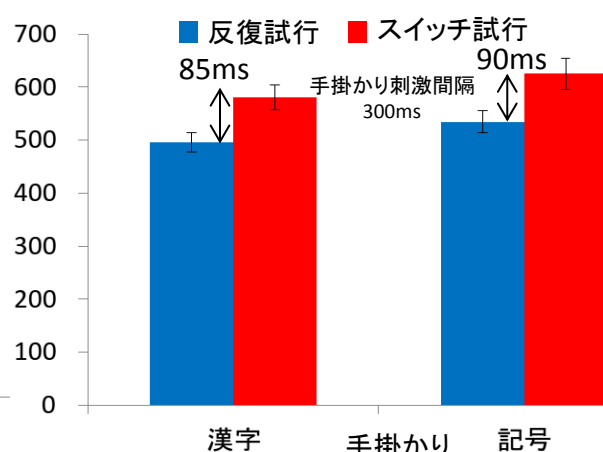
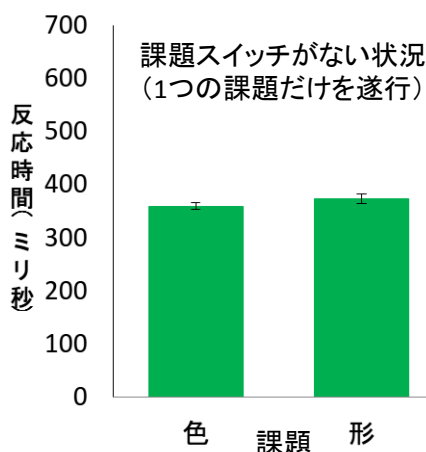
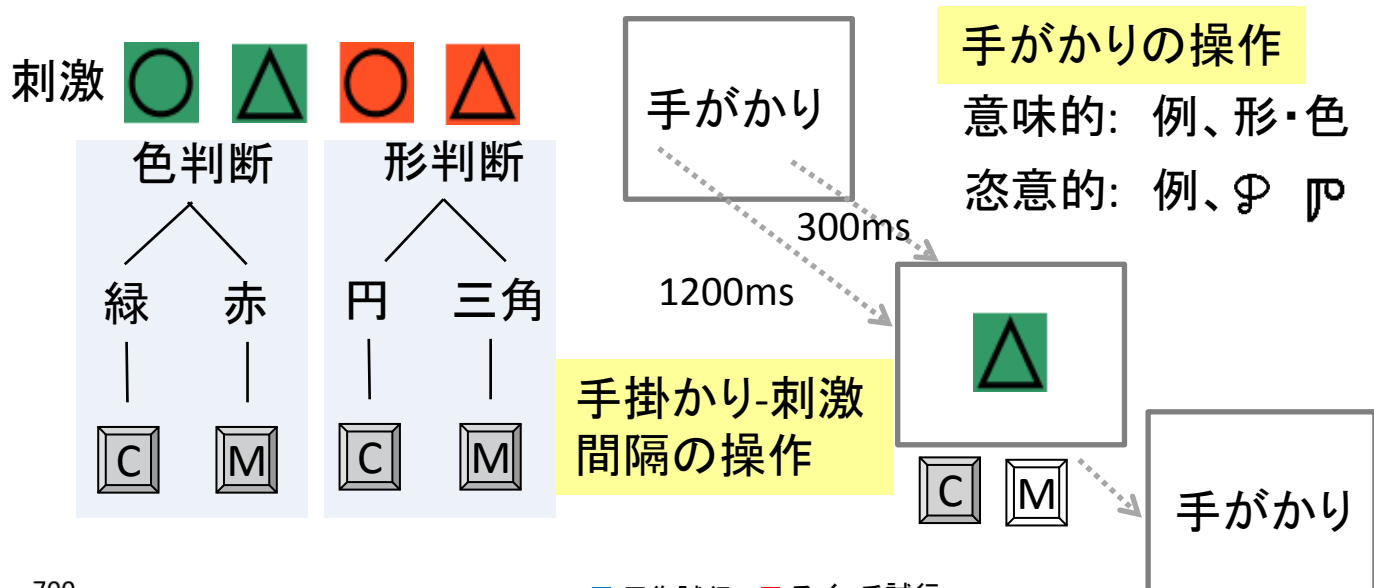
Fig.1. in Bunge, S.A. and Zelazo, P.D. (2006) A brain-based account of the development of rule use in childhood.

Curr. Dir. Psychol. Sci. 15, 118–121

<<http://cdp.sagepub.com/content/15/3/118.abstract>>

日常生活では心の構えを柔軟に変更する必要がある

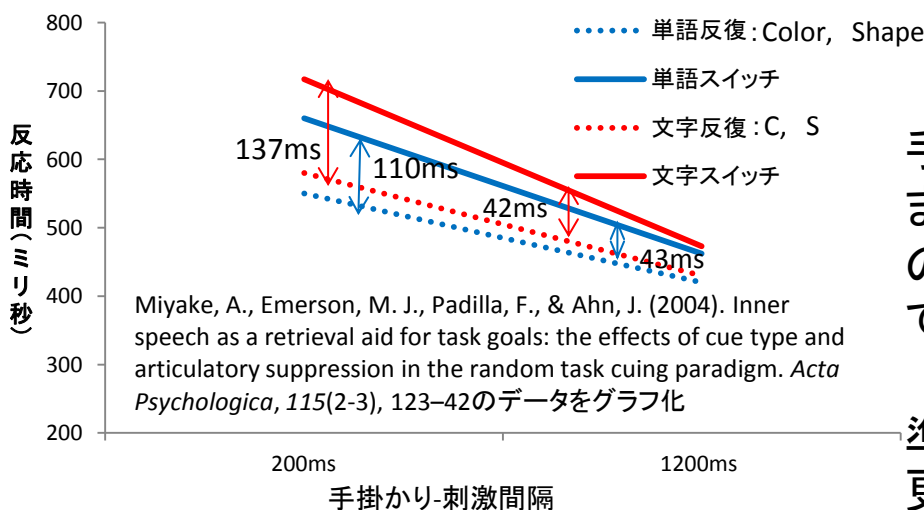
タスクスイッチングと呼ばれる実験手法を用いて、反応時間・エラーの測定から、心の構えの変更に関わる認知過程を検討。



構えの変更にと
もなうコスト

課題を変更する
試行は、反復する
試行よりも遅延が
生じる。

Saeki, E, & Saito, S. (2012). Differential effects of articulatory suppression on cue-switch and task-switch trials in random task cueing with 2:1 mapping. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 65(8), 1599-1614より。



Miyake, A., Emerson, M. J., Padilla, F., & Ahn, J. (2004). Inner speech as a retrieval aid for task goals: the effects of cue type and articulatory suppression in the random task cuing paradigm. *Acta Psychologica*, 115(2-3), 123-42のデータをグラフ化

構えの準備と
その限界

手掛かりから刺激呈示
までに時間があると、次
の課題の構えの準備が
できる。

しかし、刺激呈示前に
準備期間があっても、変
更コストは消失しない。